

# CLARINET

クラリネット

## ラシラシ・マスター、その先には……

持丸秀一郎 もちまる・しゅういちろう



- ◆出身 武蔵野音楽大学、同大学院、ハンガリー国立リスト音楽院
- ◆所属 日本センチュリー交響楽団首席奏者 日本クラリネット協会理事
- ◆趣味 料理、ドライブ
- ◆血液型 B型
- ◆星座 てんびん座
- ◆読者にひとこと 常に謙虚な気持ちで音楽に接してください
- ◆手紙の送り先 BJ 気付

先月紹介したブリッジ音域の運指、試してみましたか？ 補助の指を押さえるだけで響きや音程に明らかな差があることに気づくことができましたと思います。今月はこのブリッジ音域と、すぐ上のクラリオン音域の『シ』が滑らかに繋がるように『シ〜ラ』の練習をしましょう。

### ■ポイントは左手の人差し指

クラリネットの指の動きは基本的に上下運動ですが、この左手の人差し指は特殊な動きをします。【譜例1】を指定の指づかいで演奏してみてください。

ひし形の音符のときに人差し指がうまく動けば、音程の高い『シ』が鳴ります。リードミスをしたり『シ』の音が鳴らない場合は、他の指が動いてしまっているのが原因ですので、人差し指以外は動かないように気をつけましょう。手が小さくて左の小指が届かない、つりそうになる……という人は、左の小指を離しても構いません（この場合、右小指を使って『シ』のキを押さえてくださいね）。

【譜例1】



○「シ」は通常の運指で、ひし形の音符は左の運指で演奏します。  
○ひし形の音符では、音程の高い「シ」が鳴ります。

【譜例2】



○「シ」は通常の運指で、ひし形の音符は左の運指で演奏します。  
○ひし形の音符では、音程の低い「ラ」が鳴ります。

【譜例3】



大事なのは、「ラ」のキは人差し指の腹ではなく横（側面）で押すという感覚を身につけることです。息はロングトーンをつもりでまっすぐ入れ、『シ〜ラ』も滑らかなレガートで演奏できるように練習しましょう。

これができるようになったら、今度は【譜例2】を演奏してみましょう。この指定の指づかいでは音程の低い「ラ」が鳴ります。これは、左手の人差し指と親指の連動の練習です。人差し指は手首をひねるような、指を寝かすような動きで親指は上下運動。この2つの異なる動きが、同時にきびきび動くように心がけましょう。テンポは遅くても、指の動きは常にすばやく正確に！

ここまでできれば最終段階。【譜例3】を正しい音程がとれる運指（先月紹介した運指など）で『シ〜ラ〜シ〜』と演奏してみましょう。

クラリネットでは、どんなに力を込めて指を押さえても音には全く影響しません（音量の調整は息で行ないますよね）。指にはオン（押さえてる）とオフ（押さえていない）の機能があるだけです。穴を塞ぐ・キを押さえるのも必要最小限の力で行ない、素早

【譜例4】 ♩=75~80



い・俊敏な指の動きを心がけましょう。

### ■ラシラシをマスターしたら……

さて、ロングトーンができ、各音域を滑らかに繋げることができるようになったみなさんに、ぜひ紹介したい曲があります。フランスの作曲家、ビゼー作曲オペラ《カルメン》から〈間奏曲〉です【譜例4】。とても有名な曲なので知っている人も多いかな？ 実際のオーケストラでは、フルートとハープによる二重奏の後に、同じメロディをクラリネットが演奏します。シンプルなメロディの中に美しさと切なさを合わせ持ち、約3時間あるオペラの中でもとても心に残る1曲です。まずはみなさんが感じるままに、このメロディを楽しんでみてください。そして、もし興味があればオペラの全曲を鑑賞してみてください。全体のストーリーを把握してどの場面が使われているのかを知ると、また違って聴こえてきますよ。

参考までに、テンポとブレスの位置を書いておきます。とくに最後の4小節はノン・ブレスで演奏できるようにチャレンジしてみてください。音楽的にも技術（体力？）的にも、とてもよい練習になります。それではまた来月♪

演奏会情報

日本センチュリー交響楽団 四季コンサート〜夏

2011年8月21日（日）15：00開演 NHK 大阪ホール

7月号で紹介したラヴェルの《ボレロ》やビゼーの組曲「アルルの女」第2番などを演奏します。生のオーケストラの *ppp*〜*fff* を体感しに来てね♪